

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-79725

(P2016-79725A)

(43) 公開日 平成28年5月16日 (2016.5.16)

(51) Int.Cl.
E04H 1/02 (2006.01)F 1
E04H 1/02テーマコード (参考)
2E025

審査請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2014-213558 (P2014-213558)
(22) 出願日 平成26年10月20日 (2014.10.20)(71) 出願人 303046244
旭化成ホームズ株式会社
東京都新宿区西新宿一丁目24番1号
(74) 代理人 100088155
弁理士 長谷川 芳樹
(74) 代理人 100128381
弁理士 清水 義憲
(74) 代理人 100133307
弁理士 西本 博之
(72) 発明者 工藤 智勇
東京都新宿区西新宿一丁目24番1号 旭
化成ホームズ株式会社内
Fターム (参考) 2E025 AA14 AA15 AA24 AA25 AA26

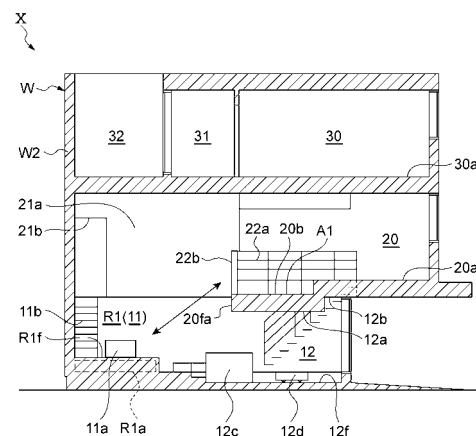
(54) 【発明の名称】 建物

(57) 【要約】

【課題】 吹抜け部を有する建物において、コミュニケーションを容易に図る。

【解決手段】 建物Xは、1階に設けられたダイニングキッチン12と、2階に設けられた2階居間20と、ダイニングキッチン12及び2階居間20に連通する第一の吹抜け部R1とを有している。第一の吹抜け部R1の床R1fは、ダイニングキッチン12側（南側）よりもダイニングキッチン12側とは反対側（北側）が高い雛壇状に形成されている。これにより、第一の吹抜け部R1の床R1fに座る人又は雛壇の段部に腰掛けている人など第一の吹抜け部R1にいる人と、2階居間20にいる人との高さ方向の距離が近くなる。

【選択図】 図6



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第一階層部と、前記第一階層部の上方に位置する第二階層部と、前記第一階層部及び前記第二階層部に隣接するとともに前記第一階層部及び前記第二階層部に連通する第一の吹抜け部と、を有する建物であって、

前記第一階層部の床と前記第一の吹抜け部の床とは連続しており、

前記第二階層部の天井と前記第一の吹抜け部の天井とは連続しており、

前記第一の吹抜け部の床は、前記第一階層部側よりも前記第一階層部側とは反対側が高い雛壇状に形成されている、建物。

【請求項 2】

前記第二階層部の床は、前記第一の吹抜け部側が前記第一の吹抜け部側とは反対側よりも低い雛壇状に形成されている、請求項 1 に記載の建物。

【請求項 3】

雛壇状に形成された前記第二階層部の最も床高さが低い部分を最低床部とし、

前記最低床部の直下に位置する前記第一階層部の天井の高さは、前記最低床部以外の直下に位置する前記第一階層部の天井の高さよりも低く、

前記第一階層部における前記最低床部の直下には、第一の着座装置が設けられている、請求項 2 に記載の建物。

【請求項 4】

前記第一の着座装置は、テーブルであるとともに、前記第一の吹抜け部の雛壇状の床に近接する位置に配置されている、請求項 3 に記載の建物。

【請求項 5】

前記第二階層部の床の前記第一の吹抜け部に面する端縁には、透視性を有する手摺りが設けられている、請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の建物。

【請求項 6】

前記第一の吹抜け部の床の最上段部には、第二の着座装置が設けられている、請求項 1 から 5 のいずれか一項に記載の建物。

【請求項 7】

前記第一階層部と前記第二階層部との間を昇降するための主昇降手段と、

前記第一の吹抜け部の床の最上段部と前記第二階層部との間を昇降するための補助昇降手段と、を更に備える、請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載の建物。

【請求項 8】

前記第一階層部及び前記第二階層部に隣接するとともに前記第一階層部及び前記第二階層部に連通する第二の吹抜け部を更に備え、

前記第二の吹抜け部は、前記第二階層部の床における前記第一の吹抜け部に面する端縁に対して直交する端縁に沿って設けられている、請求項 1 から 7 のいずれか一項に記載の建物。

【請求項 9】

前記第二階層部の上方に位置する第三階層部と、

前記第二階層部と前記第三階層部との間を昇降するための直階段と、を更に備え、

前記第二の吹抜け部は、前記第一階層部、前記第二階層部及び前記第三階層部に隣接するとともに前記第一階層部、前記第二階層部及び前記第三階層部に連通し、

前記直階段は、前記第二の吹抜け部に設けられ、

前記直階段の上り方向は、平面視において、前記第一の吹抜け部に向かう方向である、請求項 8 に記載の建物。

【請求項 10】

前記第一の吹抜け部の床には、床下収納が設けられている、請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載の建物。

【請求項 11】

前記第一の吹抜け部の天井は、前記第二階層部側よりも前記第二階層部側とは反対側が

10

20

30

40

50

低い、請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の建物。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明の一側面は、吹抜け部を有する建物に関する。

【背景技術】

【0002】

建物において、1階と2階との間のコミュニケーションの促進を目的として、1階と2階とをつなぐ吹抜け部を設けることがある。このような吹抜け部を有する建物が、例えば特許文献1に記載されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開平11-141148号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

吹抜け部によって1階と2階とをつないだ場合、1階と2階との間で声を掛け合ったり、気配を感じ取ったりすることが容易となる。しかしながら、1階にいる人と2階にいる人とが互いに顔を合わせるためには、2階にいる人が吹抜け部近傍まで近寄って1階を見下ろす必要がある。或いは、1階にいる人が後方（2階のにいる人から離れる方向）に下がって、2階を見上げる必要がある。このように、吹抜け部を有する建物においても、下階と上階との間のコミュニケーションをより一層図ることが可能な構成が望まれている。

【0005】

そこで、本発明の一側面は、吹抜け部を有する建物において、コミュニケーションを図ることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の一側面は、第一階層部と、第一階層部の上方に位置する第二階層部と、第一階層部及び第二階層部に隣接するとともに第一階層部及び第二階層部に連通する第一の吹抜け部と、を有する建物であって、第一階層部の床と第一の吹抜け部の床とは連続しており、第二階層部の天井と第一の吹抜け部の天井とは連続しており、第一の吹抜け部の床は、第一階層部側よりも第一階層部側とは反対側が高い雛壇状に形成されている。

【0007】

この建物において、第一の吹抜け部の床は、第一階層部側よりも第一階層部側とは反対側が高い雛壇状に形成されている。これにより、第一の吹抜け部の床面に座る人又は雛壇の段部に腰掛けている人など第一の吹抜け部にいる人と、第二階層部にいる人との高さ方向の距離が近くなる。従って、第一の吹抜け部にいる人と第二階層部にいる人とが自然に対面しやすくなり、両者が顔を合わせながらコミュニケーションを容易に図ることができる。

【0008】

第二階層部の床は、第一の吹抜け部側が第一の吹抜け部側とは反対側よりも低い雛壇状に形成されていてもよい。この場合、第一の吹抜け部にいる人と、第二階層部にいる人との高さ方向の距離がより一層近くなる。従って、第一の吹抜け部にいる人と第二階層部にいる人とがより一層自然に対面しやすくなる。

【0009】

雛壇状に形成された第二階層部の最も床高さが低い部分を最低床部とし、最低床部の直下に位置する第一階層部の天井の高さは、最低床部以外の直下に位置する第一階層部の天井の高さよりも低く、第一階層部における最低床部の直下には、第一の着座装置が設けられていてもよい。第一の着座装置が設けられていることにより、第一階層部における最低

10

20

30

40

50

床部の直下に位置する空間は、着座を前提とした空間となる。ここで、着座を前提とした空間とは、天井高さを高く確保する必要性が低い。このように、第二階層部の床を雛壇状に形成してコミュニケーションの促進を図りつつ、第一階層部において天井高さが低くなる空間を有効利用できる。

【0010】

第一の着座装置は、テーブルであるとともに、第一の吹抜け部の雛壇状の床に近接する位置に配置されていてもよい。この場合、雛壇状に形成された第一の吹抜け部の床の段差部分に腰掛けて、テーブルを利用することができる。このように、第一の吹抜け部の床の段差部分を有効利用できる。

【0011】

第二階層部の床の第一の吹抜け部に面する端縁には、透視性を有する手摺りが設けられていてもよい。この場合、第二階層部の人が第一の吹抜け部近傍まで移動しなくとも、第一の吹抜け部にいる人と第二階層部にいる人との間での視認性を確保できる。

【0012】

第一の吹抜け部の床の最上段部には、第二の着座装置が設けられていてもよい。第二の着座装置が設けられる位置は、第一の吹抜け部において第二階層部にいる人を最も視認しやすい位置である。従って、第二の着座装置に座ることにより、第一の吹抜け部にいる人と第二階層部にいる人とのコミュニケーションをより一層容易に図ることができる。

【0013】

建物は、第一階層部と第二階層部との間を昇降するための主昇降手段と、第一の吹抜け部の床の最上段部と第二階層部との間を昇降するための補助昇降手段と、を更に備えていてもよい。これにより、主昇降手段及び補助昇降手段を用いて、第二階層部と第一階層部とを容易に往来できる。また、補助昇降手段が第一の吹抜け部の最上段部に設けられているので、補助昇降手段を用いて昇降する距離が短くなる。

【0014】

建物は、第一階層部及び第二階層部に隣接するとともに第一階層部及び第二階層部に連通する第二の吹抜け部を更に備え、第二の吹抜け部は、第二階層部の床における第一の吹抜け部に面する端縁に対して直交する端縁に沿って設けられていてもよい。これにより、第一の吹抜け部にいる人と第二階層部の奥まった位置（第一の吹抜け部から離れた位置）にいる人とが、互いに第二の吹抜け部を介して容易に視認することができる。

【0015】

建物は、第二階層部の上方に位置する第三階層部と、第二階層部と第三階層部との間を昇降するための直階段と、を更に備え、第二の吹抜け部は、第一階層部、第二階層部及び第三階層部に隣接するとともに第一階層部、第二階層部及び第三階層部に連通し、直階段は、第二の吹抜け部に設けられ、直階段の上り方向は、平面視において、第一の吹抜け部に向かう方向であってもよい。この場合、第一の吹抜け部にいる人と第二階層部にいる人とが第二の吹抜け部を介して互いに視認する際の視認性を、直階段が阻害することを抑制できる。また、第二の吹抜け部の上方の空間を階段スペースとして有効利用できる。

【0016】

第一の吹抜け部の床には、床下収納が設けられていてもよい。この場合、雛壇状に形成することによってできる床下空間を有効利用することができる。

【0017】

第一の吹抜け部の天井は、第二階層部側よりも第二階層部側とは反対側が低くてもよい。この場合、第二階層部にいる人の視線方向が自然と下方向を向く。これにより、第二階層部にいる人が第一の吹抜け部にいる人と自然に対面しやすくなる。

【発明の効果】

【0018】

本発明の一側面によれば、吹抜け部を有する建物において、コミュニケーションを図ることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

10

20

30

40

50

【0019】

【図1】実施形態に係る建物の1階の間取りを示す平面図である。

【図2】実施形態に係る建物の2階の間取りを示す平面図である。

【図3】実施形態に係る建物の3階の間取りを示す平面図である。

【図4】図1におけるI V-I V線に沿った断面図である。

【図5】図1におけるV-V線に沿った断面図である。

【図6】図1におけるV I-V I線に沿った断面図である。

【図7】採光窓から至光部に光が導かれる様子を模式的に示す断面図である。

【図8】変形例に係る建物を模式的に示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

10

【0020】

以下、本発明の実施形態について図面を参照しながら説明する。なお、図面の説明において同一の要素には同一の符号を付し、重複する説明を省略する。

【0021】

図1～図6に示すように、建物Xは、平面視で略矩形状に形成された外周壁Wによって囲まれた3階建ての住宅用建物である。本実施形態では、部屋等の配置説明を容易にするため、図1～図3の方位記号が示す通り、上方向を北側として説明する。

【0022】

建物Xの1階について説明する。図1及び図4～図6に示すように、建物Xの1階には、玄関土間10、1階居間11、及びダイニングキッチン（第一階層部）12が設けられている。玄関土間10は、1階の南東の角部に設けられている。玄関土間10の南側には、玄関ドア10aが設けられている。1階居間11は、玄関土間10の北側に隣接し、且つ外周壁Wの東側外周壁W1及び北側外周壁W2に沿って設けられている。1階居間11と玄関土間10との間には、開閉可能な建具10bが設けられている。ダイニングキッチン12は、1階の南西の角部に設けられている。すなわち、ダイニングキッチン12の東側及び北側は、平面視でL字状に設けられた1階居間11によって囲まれている。

20

【0023】

図2及び図4～図6に示すように、建物Xの2階には、2階居間（第二階層部）20、及び寝室21が設けられている。2階居間20は、2階の南側の位置に設けられている。2階居間20の床20fにおける北西の角部と、外周壁Wの西側外周壁W3とは離間している。すなわち、2階居間20の北西の角部と西側外周壁W3との間に第二の吹抜け部R2が設けられている。第二の吹抜け部R2は、1階のダイニングキッチン12の床から3階の天井に亘って設けられている。第二の吹抜け部R2は、ダイニングキッチン12、2階居間20及び後述する3階居室30に隣接するとともに、ダイニングキッチン12、2階居間20及び3階居室30に連通している。第二の吹抜け部R2は、平面視において、南北方向に延びている。

30

【0024】

2階居間20の床20fには、開口部20cが設けられている。開口部20cは、南北方向に延びている。開口部20cは、東側外周壁W1と所定距離離間している。開口部20cの端縁と、1階居間11の床とは、第一の直階段（主昇降手段）S1によって接続されている。第一の直階段S1は、開口部20cを介して1階と2階との間を昇降するための階段である。第一の直階段S1の昇降方向は、南北方向に延びている。第一の直階段S1は、南側から北側に向かって下る向きに設けられている。平面視において、第二の吹抜け部R2と開口部20cとは、南北方向の位置がほぼ同じとなっている。

40

【0025】

寝室21は、2階の北東の角部に設けられている。寝室21と西側外周壁W3とは離間している。2階居間20の北西の角部と北側外周壁W2とは離間している。すなわち、寝室21の西側に第一の吹抜け部R1が形成されている。第一の吹抜け部R1は、1階居間11の床から2階の天井に亘って設けられている。すなわち、1階居間11の北西の角部は、第一の吹抜け部R1となっている。

50

【0026】

第一の吹抜け部 R 1 と第二の吹抜け部 R 2 とは、西側外周壁 W 3 に沿って、南北方向において互いに連通している。2 階居間 2 0 の床 2 0 f における第一の吹抜け部 R 1 に面する端縁を端縁 2 0 f a とする。第二の吹抜け部 R 2 は、床 2 0 f の端縁 2 0 f a に対して直交する端縁 2 0 f b に沿って設けられている。

【0027】

2 階居間 2 0 は、基準床部 2 0 a、及び低床部（最低床部）2 0 b を有している。低床部 2 0 b は、第二の吹抜け部 R 2 と開口部 2 0 c との間に設けられている。基準床部 2 0 a は、低床部 2 0 b の南側、及び開口部 2 0 c の東側に広がっている。低床部 2 0 b は、基準床部 2 0 a よりも床レベルが低い。

10

【0028】

低床部 2 0 b における開口部 2 0 c 側（東側）の端縁には、南北方向に延びる手摺り 2 2 a が設けられている。手摺り 2 2 a は、透光性を有する。低床部 2 0 b における第一の吹抜け部 R 1 に面する側（北側）の端縁 2 0 f a には、東西方向に延びる手摺り 2 2 b が設けられている。手摺り 2 2 b は、透視性を有する。低床部 2 0 b における第二の吹抜け部 R 2 に面する側（西側）の端縁 2 0 f b には、南北方向に延びる手摺り 2 2 c が設けられている。手摺り 2 2 c は透視性を有する。手摺り 2 2 a ～ 2 2 c として、例えば、線材を格子状に配置して形成された手摺り、或いは、透明な板材等で形成された腰壁状の手摺り等を用いることができる。

【0029】

20

図 3 及び図 4 ～ 図 6 に示すように、建物 X の 3 階には、3 階居室（第三階層部）3 0、洗面・浴室 3 1、及びベランダ 3 2 が設けられている。3 階居室 3 0 は、3 階の南側の位置に設けられている。3 階居室 3 0 は、基準床部 3 0 a、及び低床部 3 0 b を有している。低床部 3 0 b は、3 階居室 3 0 の北東の角部に設けられている。低床部 3 0 b は、基準床部 3 0 a よりも床レベルが低い。3 階居室 3 0 の床 3 0 f には、開口部 3 0 c が設けられている。開口部 3 0 c は、西側外周壁 W 3 に隣接し、南北方向に延びている。

【0030】

建物 X の 3 階において第二の吹抜け部 R 2 には、第二の直階段（直階段）S 2 が設けられている。第二の直階段 S 2 は、開口部 3 0 c の端縁と、2 階居間 2 0 の床 2 0 f とを接続している。第二の直階段 S 2 は、開口部 3 0 c を介して 2 階と 3 階との間を昇降するための階段である。第二の直階段 S 2 の昇降方向は、南北方向に延びている。第二の直階段 S 2 は、北側から南側に向かって下る向きに設けられている。すなわち、平面視において、第二の直階段 S 2 の上り方向は、第一の吹抜け部 R 1 側に向かう方向である。第一の直階段 S 1 と第二の直階段 S 2 とは、平面視において、昇降方向が互いに平行であり、昇降方向が互いに逆方向となっている。

30

【0031】

平面視において、3 階の床 3 0 f に設けられた開口部 3 0 c と、2 階の床 2 0 f に設けられた開口部 2 0 c とは、南北方向の位置がほぼ同じとなっている。床 3 0 f には、開口部 3 0 c の東側及び南側の端縁に沿って腰壁 3 3 が設けられている。

【0032】

40

西側外周壁 W 3 における開口部 3 0 c の近傍には、開口部 W 3 a が設けられている。開口部 W 3 a は、3 階の床 3 0 f から 3 階の天井に亘って設けられている。開口部 W 3 a には、採光窓 3 4 が取り付けられている。本実施形態において、採光窓 3 4 は、折れ戸式の窓である。但し、採光窓 3 4 の種類は折れ戸式に限定されない。

【0033】

洗面・浴室 3 1 は、3 階居室 3 0 の北側に設けられている。ベランダ 3 2 は、洗面・浴室 3 1 の北側に設けられている。

【0034】

次に、建物の 1 階と 2 階との上下方向の関係について説明する。主に図 6 に示すように、ダイニングキッチン 1 2 の上方には、2 階居間 2 0 が位置している。第一の吹抜け部 R

50

1 は、ダイニングキッチン 1 2 及び 2 階居間 2 0 に隣接するとともに、ダイニングキッチン 1 2 及び 2 階居間 2 0 に連通している。ダイニングキッチン 1 2 の床 1 2 f と第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f とは連続している。2 階居間 2 0 の天井と第一の吹抜け部 R 1 の天井とは連続している。第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f は、ダイニングキッチン 1 2 側（南側）よりも、ダイニングキッチン 1 2 側とは反対側（北側）が高い雛壇状に形成されている。

【0035】

建物 X の 2 階において、低床部 2 0 b は、基準床部 2 0 a よりも床レベルが低い。すなわち、第一の吹抜け部 R 1、低床部 2 0 b 及び基準床部 2 0 a を通るように 2 階居間 2 0 を南北方向に沿って見たときに、2 階居間 2 0 の床 2 0 f は、第一の吹抜け部 R 1 側（北側）が第一の吹抜け部 R 1 側とは反対側（南側）よりも低い雛壇状に形成されている。

10

【0036】

ダイニングキッチン 1 2 の天井のうち、低床部 2 0 b の直下に位置する部分の天井 1 2 a の高さは、基準床部 2 0 a の直下に位置する部分の天井 1 2 b の高さよりも低い。ダイニングキッチン 1 2 において、低床部 2 0 b の直下には、テーブル（第一の着座装置）1 2 c が設けられている。すなわち、テーブル 1 2 c は、ダイニングキッチン 1 2 において天井高さが低い位置に設けられている。テーブル 1 2 c は、雛壇状に形成された第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f の段差部分に近接する位置に配置されている。テーブル 1 2 c の周囲に、椅子 1 2 d が設けられていてもよい。

20

【0037】

第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f の最上段部には、着座装置（第二の着座装置）1 1 a が設けられている。着座装置 1 1 a は、例えば、ソファ、ベンチ、掘座卓等、着座が可能な装置である。

【0038】

第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f には、床下収納 R 1 a が設けられている。床下収納 R 1 a は、雛壇状に形成された床 R 1 f の段差部分を利用して、側面に開口を有し横方向に収納部を引き出し可能な引き出し式の収納であってもよい。また、床下収納 R 1 a は、上面の蓋が開閉可能に設けられた掘り込み式の収納であってもよい。

【0039】

図 1、図 2 及び図 6 に示すように、第一の吹抜け部 R 1 には、床 R 1 f の最上段部と 2 階の寝室 2 1 との間を昇降するための梯子（補助昇降手段）1 1 b が設けられている。なお、寝室 2 1 における第一の吹抜け部 R 1 に面する側の壁 2 1 a には、開口部 2 1 b が設けられている。寝室 2 1 と第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f とは、梯子 1 1 b を用いて開口部 2 1 b を介して往来することができる。寝室 2 1 と第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f との間を昇降可能な装置であれば、梯子 1 1 b 以外の装置（例えば固定式の階段）を用いてもよい。

30

【0040】

次に、建物 X の採光について説明する。ここでは、3 階の西側外周壁 W 3 に設けられた採光窓 3 4 から取り込んだ光を、1 階に導く場合について説明する。ここで、図 1 に示すように、1 階において光が導かれる領域を至光部 A 3 とする。図 7 に示すように、至光部 A 3 は、2 階の床 2 0 f に設けられた開口部 2 0 c よりも下方に位置している。至光部 A 3 は、採光窓 3 4 と、開口部 2 0 c とをつなぐ直線上に位置している。すなわち、至光部 A 3 は、1 階居間 1 1 において第一の直階段 S 1 の東側の領域である。

40

【0041】

なお、3 階の床 3 0 f に設けられた開口部 3 0 c は、採光窓 3 4 と、2 階の床 2 0 f に設けられた開口部 2 0 c とをつなぐ直線上に位置している。すなわち、採光窓 3 4、3 階の床 3 0 f に設けられた開口部 3 0 c、2 階の床 2 0 f に設けられた開口部 2 0 c、及び至光部 A 3 は、平面視において、南北方向の位置がほぼ同じとなっている。

【0042】

図 2 に示すように、平面視において、2 階の床 2 0 f における開口部 2 0 c よりも至光

50

部 A 3 側（東側）の領域を至光部側床領域 A 2 とする。また、平面視において、2 階の床 2 0 f における開口部 2 0 c よりも採光窓 3 4 側（西側）の領域を採光部側床領域 A 1 とする。採光部側床領域 A 1 とは、低床部 2 0 b の床部分である。上述したように、低床部 2 0 b は、基準床部 2 0 a よりも床レベルが低い。すなわち、採光部側床領域 A 1 は、至光部側床領域 A 2 よりも床レベルが低い。採光部側床領域 A 1 は、平面視において、3 階の床 3 0 f に設けられた開口部 3 0 c と、2 階の床 2 0 f に設けられた開口部 2 0 c との間に位置している。

【0043】

西側外周壁 W 3 における開口部 W 3 a の端縁のうち、採光窓 3 4 の下端に位置する端縁には、図 7 に示すように断面視において、採光窓 3 4 から至光部 A 3 へ向かう光の進行方向に略並行な（進行方向に沿った）面取り部 W 3 b が設けられている。なお、断面視における断面とは、建物 X を鉛直方向に切った場合の断面である。至光部側床領域 A 2 における開口部 2 0 c 側（西側）の端縁には、図 7 に示すように断面視において、採光窓 3 4 から至光部 A 3 へ向かう光の進行方向に略並行な面取り部 A 2 a が設けられている。3 階の床 3 0 f における開口部 3 0 c の端縁のうち、至光部 A 3 側に位置する端縁には、図 7 に示すように断面視において、採光窓 3 4 から至光部 A 3 へ向かう光の進行方向に略並行な面取り部 3 0 d が設けられている。

【0044】

採光窓 3 4 から建物 X 内に入射した光は、3 階の床 3 0 f に設けられた開口部 3 0 c 、2 階の床 2 0 f に設けられた開口部 2 0 c を介して至光部 A 3 に到達する。

【0045】

本実施形態は以上のように構成され、例えば図 6 に示すように、第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f は、ダイニングキッチン 1 2 側（南側）よりもダイニングキッチン 1 2 側とは反対側（北側）が高い雛壇状に形成されている。これにより、第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f に座る人又は雛壇の段部に腰掛けている人など第一の吹抜け部 R 1 にいる人と、2 階居間 2 0 にいる人との高さ方向の距離が近くなる。従って、第一の吹抜け部 R 1 にいる人と 2 階居間 2 0 にいる人とが自然に対面しやすくなり、両者が顔を合わせながらコミュニケーションを容易に図ることができる。

【0046】

2 階居間 2 0 には、第一の吹抜け部 R 1 側の領域に低床部 2 0 b が設けられている。この場合、第一の吹抜け部 R 1 にいる人と、2 階居間 2 0 の低床部 2 0 b にいる人との高さ方向の距離がより一層近くなる。従って、第一の吹抜け部 R 1 にいる人と 2 階居間 2 0 の低床部 2 0 b にいる人とがより一層自然に対面しやすくなる。

【0047】

ダイニングキッチン 1 2 において、2 階居間 2 0 の低床部 2 0 b の直下には、テーブル 1 2 c が設けられている。これにより、テーブル 1 2 c が設けられた空間は、着座を前提とした空間となる。着座を前提とした空間は、天井高さを高く確保する必要性が低い。従って、2 階居間 2 0 に低床部 2 0 b を形成してコミュニケーションの促進を図りつつ、ダイニングキッチン 1 2 において天井高さが低くなる空間を有効利用できる。

【0048】

テーブル 1 2 c は、雛壇状に形成された第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f に近接する位置に配置されている。この場合、雛壇状に形成された床 R 1 f の段差部分に腰掛けて、テーブル 1 2 c を利用することができる。このように、第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f の段差部分を有効利用できる。

【0049】

2 階の低床部 2 0 b における第一の吹抜け部 R 1 側の端縁 2 0 f a には、透視性を有する手摺り 2 2 b が設けられている。これにより、低床部 2 0 b の人が第一の吹抜け部 R 1 側に移動しなくとも、第一の吹抜け部 R 1 にいる人と低床部 2 0 b にいる人との間での視認性が確保できる。

【0050】

第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f の最上段部には、着座装置 1 1 a が設けられている。着座装置 1 1 a が設けられる位置は、第一の吹抜け部 R 1 において 2 階居間 2 0 にいる人を最も視認しやすい位置である。従って、着座装置 1 1 a に座ることにより、第一の吹抜け部 R 1 にいる人と 2 階居間 2 0 にいる人とのコミュニケーションをより一層容易に図ることができる。

【0051】

建物 X は、1 階と 2 階との間を昇降するための第一の直階段 S 1 と梯子 1 1 b とを備えている。また、梯子 1 1 b は、第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f の最上段部に設けられている。これにより、建物 X の 1 階と 2 階とを第一の直階段 S 1 又は梯子 1 1 b を用いて容易に往来できる。また、梯子 1 1 b が第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f の最上段部に設けられているので、梯子 1 1 b を用いて昇降する距離が短くなる。

10

【0052】

第二の吹抜け部 R 2 は、2 階の低床部 2 0 b の床における端縁 2 0 f b に沿って設けられている。これにより、第一の吹抜け部 R 1 にいる人と 2 階居間 2 0 の奥まった位置（第一の吹抜け部 R 1 から離れた位置）にいる人とが、互いに第二の吹抜け部 R 2 を介して容易に視認することができる。

【0053】

建物 X は、2 階と 3 階との間を昇降するための第二の直階段 S 2 を備えている。第二の直階段 S 2 の上り方向は、平面視において、第一の吹抜け部 R 1 に向かう方向である。この場合、第一の吹抜け部 R 1 にいる人と 2 階居間 2 0 にいる人とが第二の吹抜け部 R 2 を介して互いに視認する際の視認性を、第二の直階段 S 2 が阻害することを抑制できる。また、第二の吹抜け部 R 2 の上方の空間を階段スペースとして有効利用できる。

20

【0054】

第一の吹抜け部 R 1 の床 R 1 f には、床下収納 R 1 a が設けられている。これにより、雛壇状に形成することによってできる床下空間を有効利用することができる。

【0055】

以上、本発明の実施形態について説明したが、本発明は、上記実施形態に限定されるものではない。例えば、図 8 に示すように、第一の吹抜け部 R 1 の天井には、2 階居間 2 0 側（南側）よりも 2 階居間 2 0 側とは反対側（北側）が低くなる傾斜部 R 1 g が設けられていてもよい。この場合、2 階居間 2 0 にいる人の視線方向が傾斜部 R 1 g の傾斜に沿って自然と下方向を向く。これにより、2 階居間 2 0 にいる人が第一の吹抜け部 R 1 にいる人と自然に対面しやすくなる。なお、2 階居間 2 0 側よりも 2 階居間 2 0 側とは反対側が低くなっていれば、第一の吹抜け部 R 1 の天井に傾斜部 R 1 g を設けることに限定されない。例えば、第一の吹抜け部 R 1 の天井が、2 階居間 2 0 側よりも 2 階居間 2 0 側とは反対側が階段状に低くなる天井であってもよい。また、第一の吹抜け部 R 1 の天井が、2 階居間 2 0 側よりも 2 階居間 2 0 側とは反対側が低くなるように、断面円弧状に湾曲した天井であってもよい。

30

【0056】

また、上記実施形態及び変形例では、3 階建ての建物 X を例に説明したが、3 階建てに限定されない。上記で説明した建物 X の各部屋の用途は一例であり、各部屋の用途は限定されない。

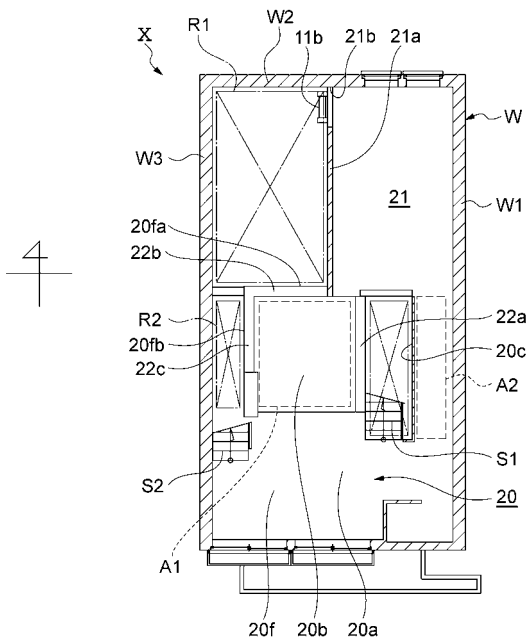
40

【符号の説明】

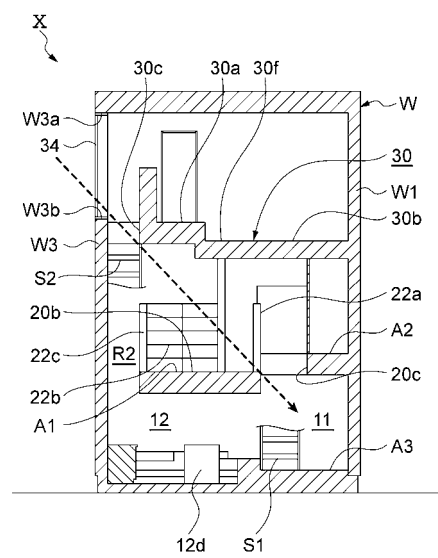
【0057】

1 1 a …着座装置（第二の着座装置）、1 1 b …梯子（補助昇降手段）、1 2 …ダイニングキッチン（第一階層部）、1 2 c …テーブル（第一の着座装置）、2 0 …2 階居間（第二階層部）、3 0 …3 階居室（第三階層部）、2 2 b …手摺り、R 1 …第一の吹抜け部、R 2 …第二の吹抜け部、S 1 …第一の直階段（主昇降手段）、S 2 …第二の直階段（直階段）、R 1 f …床（第一の吹抜け部の床）、X …建物。

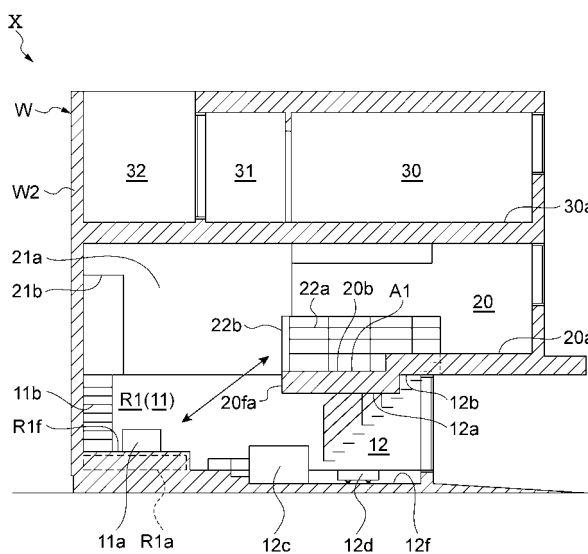
【図 2】



【 図 4 】



【 図 6 】



【図 8】

